

みなみうおぬま文化財 News

令和4年度文化財調査・保護活動レポート

埋蔵文化財の
調査

吉里地区 発掘調査



南魚沼市内には数多くの遺跡が地面の下に眠っています。遺跡はその規模や内容にかかわらず、先人たちの活動の痕跡であり、地域の貴重な歴史でもあります。南魚沼市教育委員会では、工事などが行われる前に調査を行い、遺跡の保護に努めています。

吉里地区は、市内でも屈指の遺跡が集中する地域です。鎌倉沢川によって形成された扇状地の上には、縄文時代から中世までの多くの遺跡が存在します。これらの多くは昭和40年代のほ場整備の際に発見されたものです。

平成30年(2018)から吉里地区の県営経営体基盤整備事業にともない、開発範囲の試掘・確認調査を実施しています。試掘・確認調査とは、すでに知られている遺跡(周知の埋蔵文化財包蔵地)やその周辺について、どのくらいの深さや範囲に遺跡があるのかを確認する発掘調査です。

試掘・確認調査では、バックホーを用いて水田耕土とその下の土を分けて少しずつ掘削し、土器や石器などの「遺物」や、柱の跡などの地面に残された痕跡である「遺構」があるかどうかを確認し、それらが出土する深さや量、土層の様子を記録します。

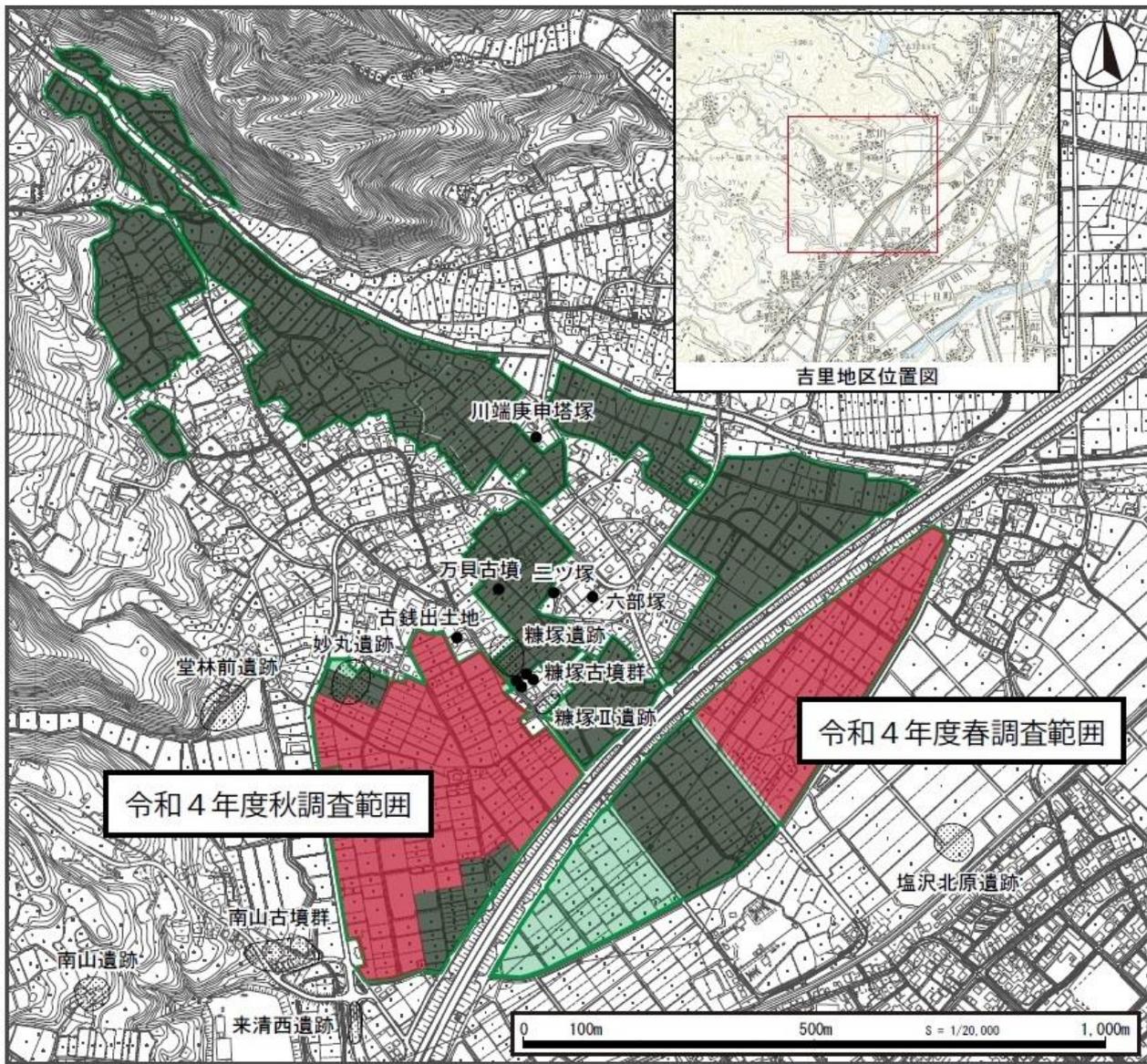


今年度は、図中の赤で示している範囲を春(5月)と秋(10月)に分けて調査を行いました。春の調査については、遺物や遺構は出土しませんでした。秋の調査では妙丸遺跡(2p調査範囲図)付近を中心に集落に近いところから多くの遺物が出土しました。

遺物は、縄文土器や石器、土師器、須恵器などが出土しています。遺構はピットや土坑などが見つっています。

縄文土器は縄文時代中期ころ、土師器や須恵器は平安時代頃のものを中心となっています。土師器とともに鉄滓や韃の羽口とみられるものが出土していることから、鍛冶を行っていたことが考えられます。遺構はあまり見つかっておらず、どのような性格の遺跡だったのかはよくわかりません。

今回の調査の結果、過去の圃場整備などによって削平されているところがあったものの集落縁辺部か



吉里地区 調査範囲図

圃場整備範囲

調査済範囲

らは多くの遺物が出土し、遺跡が完全には破壊されずに残っていることがわかりました。

さらにこれまで縄文時代の遺跡と考えられていた妙丸遺跡ですが、平安時代頃にも集落が存在していた可能性があります。砂礫層からも遺物が出土しており、土砂災害に見舞われることがあったようです。

吉里地区には、今回の調査区域以外にも古墳や古銭の出土、塚などがあり、現在の集落やその縁辺部には古くから人々が生活していたことがうかがえます

なお、遺物や遺構が出土した箇所については、関係者の御協力により遺跡がある高さまで掘削が及ばないように工事をしていただけることから、本発掘調査は行わず遺跡を保護することとなります。



吉里地区の発掘調査で見つかった土器

その他の埋蔵文化財の発掘調査

大月地区試掘調査	調査目的：県営ほ場整備に伴う確認調査 調査時期：令和4年10～11月 遺構・遺物：溝、倒木痕（時期不明）・陶器片(近世以降)
余川中道遺跡隣接地試掘調査（余川地区）	調査目的：個人住宅建設に伴う試掘調査 調査時期：令和4年11月 遺構・遺物：確認できませんでした
柳古新田遺跡隣接地試掘調査（柳古新田地区）	調査目的：民間開発に伴う試掘調査 調査時期：令和4年12月 遺構・遺物：確認できませんでした。

その他の文化財保護事業

■ 市指定文化財(史跡)に新しい案内看板を設置しました！

南魚沼市指定文化財の案内看板を順次リニューアルしています。今年度は、史跡 三ツ塚〔穴地新田〕と史跡 浄源塚〔雷土〕の案内看板を建て替えました。

以前は日本語のみでしたが、新しい看板では英語表記も追加しました。来年度以降も老朽化したものや案内看板が未設置の市指定文化財を中心に設置を進める予定です。



■ 文化財防火デー

昭和24年（1949）1月26日に法隆寺金堂で火災が起き、貴重な壁画が焼けたことから、毎年この日を「文化財防火デー」と定め、文化財を災害から保護する啓発活動を全国各地っています。

南魚沼市では市消防本部の主催により鈴木牧之記念館で防災訓練を実施しました。塩沢区内で大規模火災が発生し、記念館へ延焼の恐れがあるという想定で、地域住民などと初期消火や指定文化財の避難などの訓練をしました。



周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）について

南魚沼市内には600カ所以上の周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、遺跡）が確認されています。遺跡は地中にあり、地表からはどのような状態が不明なことが多いため、工事や開発行為により壊れてしまう恐れがあります。

そのため、工事や開発行為などを行う際には事前に遺跡の範囲ないかどうか確認をお願いいたします。また、遺跡に該当する場合、文化財保護法の規定により、事前に届出・通知の提出が必要となります。

これらのお問い合わせは、市教育委員会社会教育課文化振興係（☎025-773-3756）までお願いいたします。

遺跡は、その地域の歴史や文化など後世に伝える、とても大切な地域の財産です。皆様にはご理解とご協力をお願いいたします。

郷土資料（古文書・民具など）について

市教育委員会社会教育課では、市民の方より寄贈を受けました古文書や民具（民俗資料）などの郷土に関する資料について、随時整理作業を行っています。

市での一連の郷土史の発刊は終了していますが、これらの整理した郷土資料は、今後、郷土の歴史や文化等の調査研究活動や普及啓発事業に活用していく予定です。



文化財
あれこれ

南魚沼市指定文化財 城内のダイモチゾリ

種 別：有形民俗文化財

指 定 日：2016（平成 28）年 2 月 25 日

制作年代：明治時代中頃

材 質：ブナ

員 数：2 本 1 対

南魚沼市内には、国から指定を受けている文化財が 5 件、新潟県から指定を受けている文化財が 17 件、南魚沼市で指定しているものが 108 件あります。その他にも国の登録文化財（建造物）が 9 件あり、いずれも地域の歴史・文化・習俗などを伝えるものとして、保存・活用をはかっています。

その中から今回は、南魚沼市指定文化財の「城内のダイモチゾリ」をご紹介します。

豪雪地である魚沼地域にとってゾリは、重量物の運搬具として欠かせないもので、オオゾリや山ゾリ、キカイゾリなど運ぶ物や用途によって、様々な大きさ・形状のものがありました。その中で「ダイモチゾリ」は山ゾリの大型のもので、「^{だいも}大持ち引き」という建築材の切り出し作業で使われたことから、このように呼ばれるようになったようです。冬になると材木の伐採が行われ、雪が締まって固くなる春先にゾリを使った運搬が行われていました。

また、作業中は「大持ちうた」が歌われ、士気が高められました。城内のダイモチゾリは長さが約 6.5 m もあり、ダイモチゾリは運搬物によって様々な大きさのものが作られていたようですが、その中でも非常に大きいクラスのもので、五十沢の津久野から城内の山口にある八海神社の^{ちようずばち}手水鉢（^{うがえ}嗽鉢）の石材を運搬するために製作されたものです。

この運搬作業は 1902（明治 35）年 2 月 3～4 日に行われました。

八海神社が所在する山口地区だけでなく、城内村全域や近隣の村々からも多くの人足が動員され、道中の村々では炊き出しが行われるほどの大事業でした。

石材の掘り出しから運搬作業の状況なども記録が残されており、製作経緯から用途など詳しく分かるものは他にはなく、非常に貴重な史料と言えます。

【参考文献】

『塩沢町史 通史編上巻』2002

『六日町史 民俗』2021



八海神社城内口の手水鉢

上越線の父

みなみうおぬま
偉人伝

おか むら みつぎ
岡 村 貢

(1836-1922)

南魚沼市内を南北に貫き、群馬県高崎市から新潟県長岡市宮内までを結ぶ上越線は、地域にとって重要な交通の一つです。この上越線開通に生涯をかけて尽力し、後に「上越線の父」と呼ばれるまでになった人物が南魚沼市下一日市出身の「岡村 貢」です。

岡村は江戸時代後期の1836（天保7）年、周辺の村々の取りまとめ役をする大庄屋の家に生まれました。明治以降、戸長や郡長を歴任するなか、維新により社会が大きく変貌していくのを目の当たりにし、交通の発達しないところに地域の繁栄は望めないと考えようになっていきました。

南魚沼郡長在任期間にも機会があるごとに、官庁役人への上越線敷設の働きかけをしていたようですが、1882（明治15）年に郡長を辞したのちは、私財を投げ打ち、活動を展開します。

1889（同22）年、政府は上越線敷設の申請を、地形が厳しく積雪が多いため工事が困難であることなどを理由に却下し、1890（同23）の再申請も通りませんでした。そこで、岡村は1894（同27）年に衆議院議員となり、国政の場で訴えましたが、実現することはなく、自ら株式会社を設立し、鉄道敷設に乗り出しました。

しかし、日清戦争後の物価高で資金難に陥り、会社は解散に追い込まれました。さらに、岡村自身の資産も底をつき、万策尽きた状態となりましたが、岡村は上越線の実現を信じ続けました。

明治時代後期に地域でも再度、鉄道敷設への動きが始まり、大正時代には周辺の地域でも活動が展開されると、1920（大正8）年、上越線建設案が帝国議会で可決、工事が開始されます。1920（同9）年には宮内から東小千谷（現 小千谷駅）が開通し、開通式に岡村は来賓として出席しています。

1922（同11）年、老衰により享年87歳で逝去し、見ることは叶いませんでしたが、岡村が志を立ててから約50年が経過した1931（昭和6）年、上越線は全線開通し、魚沼地域のみならず新潟県に多くの恩恵を与える存在となりました。

【参考文献】 『塩沢町史 通史編下巻』2003・細矢菊治『岡村貢の生涯』1987



岡村貢像（石打駅前）

令和4年度 偉人顕彰事業

水島あやめ映画「明け行く空」上映会

実施日：2022（令和4）年7月16日（土）

参加者数：一般 204名

会場：南魚沼市民会館 大ホール

水島あやめが脚本を手掛けた映画「明け行く空」を佐々木亜希子弁士、永田雅代楽士の活弁・演奏とともに上映しました。参加者は、母子の再会をえがいた感動作を見入っていました。

また、ホワイエでは水島の生涯についてのパネルや直筆原稿等を展示しました。



「もっと知りたい！水島あやめ」～作品朗読会～

実施日：2023（令和5）年1月28日（土）

参加者数：一般 34名

会場：南魚沼市図書館 多目的室

図書館ボランティア「ふうせんの会」の2名による朗読で、水島あやめが少年少女向けに執筆した短編「山の勇者」、「あこがれ」、作詞を手掛けた「大月小学校校歌」を紹介しました。

朗読した短編作品は南魚沼をモデルにしたもので、参加者は読み手の語りに深く聞き入っていました。



各種事業実施報告

のびのび越後上布体験講座

実施日：2022（令和4）年8月5日（金）
参加者数：小学3～6年生6名、保護者2名
会場：鈴木牧之記念館

牧之記念館をメイン会場に、越後上布ミニ講座、藍染め、ミニ機織り体験などを行いました。また、越後上布技術保存協会の協力で苧麻畑（栃窪）や収穫した苧麻から繊維を取り出す苧引き作業の見学もしました。



夏休み考古学講座「土器づくり体験」

実施日：2022（令和4）年8月12日（金）
参加者数：小学3～6年生21名、保護者7名
会場：中央公民館 実習室

市内の遺跡から出土した縄文土器をはじめ、様々な時代の土器を展示室で学び、オープンで焼成できる陶土を使って、土器づくり体験を行いました。

自分でデザインした個性的な土器をいろいろな道具を使って、試行錯誤しながら、製作していました。



越後上布体験講座

実施日：2023（令和5）年2月25日（土）
参加者数：一般37名、小学生1名
会場：塩沢織物会館

越後上布保存協会より講師をお迎えし、越後上布の各種技術の体験を行いました。また、あいにくの天候でしたが、雪ざらし体験も行いました。市内外から集まった参加者は、越後上布の“わざ”を体験する貴重な機会を楽しんでいました。



南魚沼郷土史 販売中

南魚沼市域の歴史・民俗・自然環境等をまとめた郷土史関連図書販売しています。

購入を希望される場合は、下記担当係まで、お問い合わせください。



文化財についてのご相談・お問合せなどは、こちらまで

発行：南魚沼市教育委員会 社会教育課 文化振興係

〒949-6680 新潟県南魚沼市六日町 865 番地(南魚沼市民会館内)

電話 025-773-3756 / FAX 025-772-8161

【ホームページ】<http://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/kosodate/bunka/>

【文化財の展示】南魚沼市民会館 1階 展示室・大和公民館 1階 展示室(南魚沼市浦佐 5175-1)